

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：33921

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21574

研究課題名（和文）生活科・総合的な学習の時間を担当するコーディネーター設置の可能性に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Potential of Designating Coordinators to Be in Charge of Living Environment Studies and the Period for Integrated Studies

研究代表者

加藤 智 (Kato, Satoshi)

愛知淑徳大学・文学部・准教授

研究者番号：00619306

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、サービス・ラーニングのコーディネーターの事例、国内の生活科および総合的な学習を担当するコーディネーターの事例などから、コーディネーターに求められる資質能力および専門性を解明し、我が国におけるコーディネーターの設置の可能性と課題を検討した。コーディネーターに求められる役割、コーディネーターに求められるスキル、コーディネーターの役割を担う対象、そしてコーディネーター制度が目指すべきゴールが明らかとなった。教科の専門性が高まる中・高等学校のコーディネーター、校種間の連携を促進するコーディネーターの在り方、カリキュラム・マネジメントに関する研修の在り方等を明らかにすることが今後の課題である。

研究成果の概要（英文）：In this research, we clarified the qualities, abilities, and specializations required of coordinators based on case examples of service-learning coordinators and coordinators who are in charge of living environment studies and integrated studies, etc. in our country, and investigated the potential of and issues in designating coordinators in our country. The roles required of coordinators, the skills required of coordinators, those who will fulfill the roles of coordinators, and the goals the coordinator system should strive for were made clear. How coordinators in middle and high schools with increasingly specialized curriculums should be, how coordinators encouraging collaboration between types of schools should be, and how training relating to curriculum management should be are issues to be clarified in the future.

研究分野：教科教育学（生活科、総合的な学習の時間）

キーワード：コーディネーター 生活科 総合的な学習の時間 サービス・ラーニング

1. 研究開始当初の背景

総合的な学習の時間(以下、総合的学習)が小学校3年生から高等学校にまで導入されて10年余りが経過した。変化の激しい社会を生き抜く子どもを育てるために総合的学習の充実が不可欠であることは、既に多くの研究者・実践者が論じている。しかし、総合的学習の取り組みには未だに地域間、学校間、教師間の格差が大きく、その趣旨がすべての学校に周知されているとは言い難い状況にある。また、生活科は平成元年の学習指導要領改訂時に設置され、小学校においては根付きつつあるが、歴史の浅い教科であるがために、この教科に関する専門性を有する教員は少なく、担当教員によって指導内容にばらつきがあり、特に若手教員の中には苦手意識を感じている者も多い。しかし、生活科のような教科横断的で汎用的な資質能力の育成に資する学習は、総合的学習と同様にこれからの時代において、特にその重要性が増す教科と言えるだろう。

生活科や総合的学習のさらなる充実のために本研究が着目するのが、「生活科・総合的学習を担当するコーディネーター」(以下、コーディネーターとする)の設置である。これまでの生活科および総合的学習に関する多くの研究は、そのカリキュラムや教授方法に関するもの、あるいは担当教員の力量形成に関するものは多くあったものの、その土台を支えるコーディネーターの役割、制度、資質能力および専門性までを研究対象にする研究は見られなかった。これまで注目を浴びることのなかったコーディネーターの設置の可能性を明らかにすることで、その実践と成果にばらつきのある生活科および総合的学習を地域、学校全体でサポートする体制を構築することに貢献することが可能となり、我が国における生活科および総合的学習のさらなる充実と発展のために、ひいては子どもたちのこれからの時代を生き抜く力の育成に資する意義と価値があると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、生活科および総合的学習を担当するコーディネーターの設置を念頭に置き、その職に求められる資質能力や専門性について明らかにし、コーディネーターの設置の可能性を明らかにすることを目的とする。

本研究の成果によって、既にコーディネーターの役割を担う教職員が配置されている地域にとどまらず、今後コーディネーターの設置を検討する他の地域にとって有益な情報を提供するとともに、生活科および総合的学習のさらなる充実・発展に大きな効果がもたらされることが期待される。

3. 研究の方法

研究代表者は、これまでの米国のサービス・ラーニングに関する研究において、サービス・ラーニングの支援の重要なキーとして

のサービス・ラーニング・コーディネーターの存在を明らかにしてきた。サービス・ラーニング・コーディネーターは、教員の技術的な支援や地域との協同的な活動を総合的にコーディネートする役割を担っている。

本研究では、サービス・ラーニングが盛んなマサチューセッツ州を対象に、各学校のサービス・ラーニング・コーディネーターや州教育委員会のサービス・ラーニングの担当者へのインタビュー調査を実施した。

国内におけるコーディネーターの事例は非常に限られているが、本研究では、学校独自でコーディネーターを設置し、他の教員の生活科や総合的な学習の時間の実施をサポートしている仙台市立広瀬小学校の「生活・総合コーディネーター」に対してインタビュー調査を行った。

これらの調査の結果を基に、コーディネーターに求められる資質能力および専門性を解明し、我が国におけるコーディネーターの設置の可能性を明らかにすることを試みた。

4. 研究成果

本研究で得られた成果を基に、我が国のコーディネーターの在り方として整理すると、以下の点を指摘することができよう。

(1) コーディネーターの役割

我が国においては、「地域との橋渡し役」や「校内の取りまとめ役・調整役」としての役割が強調される傾向が見られる。一方で、米国のコーディネーターが担っている役割は、主に コミュニティとの連携の促進、カリキュラム・デザインの実施、リフレクションの機会の創出、の3点に整理された。

生活科を担うコーディネーターには、スタートカリキュラムの策定や幼小連携、生活科と総合的学習の接続を促進する役割が求められ、総合的学習を担うコーディネーターには、小学校と中学校、あるいは中学校と高等学校との間において、各学校の総合的学習の取り組みの成果の上に、それぞれの学校種にふさわしい実践が展開されるよう連携していく役割が期待される。すなわち、やの役割が一層重要となる。一方で、教科の専門性が高まる中学校や高等学校におけるコーディネーターの在り方、校種間の連携を促進するコーディネーターの在り方については、今後さらに研究と実践を積み重ねていく必要がある。

(2) コーディネーターに求められるスキル

米国のコーディネーターの事例からは、カリキュラムと密接に関連したサービス・ラーニングを実施するためには、コミュニティの実態やニーズの把握、カリキュラムやプログラムについての理解、すべての教師が自分でサービス・ラーニングのカリキュラムをデザインできるようにする指導スキル、リフレクションに関する具体的な視点や方法を与えるスキルが求められることが明らかとなった。我が国のコーディネーターにおいても、

カリキュラム・マネジメントの充実が求められる現状において、同様のスキルが今後一層求められるだろう。

(3) コーディネーターの対象

コミュニティ・スクールが全国の公立学校の1割を超える現状において、地域学校協働活動推進員にコーディネーターの役割を求める向きもある。しかし、サービス・ラーニングの事例からも明らかのように、コーディネーターにはカリキュラムに対する理解と幅広い指導スキルが求められ、外部の専門家にこれらの役割を期待するのは困難であろう。一方で、各学校の総合的学習の担当者の多くは経験不足であることから、総合的学習の担当者の立場や役割を見直し、「カリキュラム・マネージャー」として、各学校の実態を踏まえ、生活科や総合的学習を中核としてカリキュラム・マネジメントを推進していくことが肝要である。「地域との橋渡し」に関しては、地域学校協働活動推進員の支援を受けながら、その役割を担うことが期待される。そして、コーディネーターの養成にあたっては、教育委員会等による「カリキュラム・マネジメント研修」の実施と充実が一層重要になる。

(4) コーディネーターのゴール

コーディネーターを増やすことそのものがコーディネーターの制度的な目的ではないことは、米国のコーディネーターの事例、我が国のコーディネーターの事例でも明らかである。各教員がカリキュラム・マネジメントのスキルを高め、コーディネーターの支援を受けなくても、自らの力量でカリキュラム・マネジメントを実施できるようにすることが、コーディネーターの最終的なゴールであることを確認する必要がある。その過渡期として、現在は教育委員会等が中心となってコーディネーターを養成し、各学校にコーディネーターを配置できるようにすることが急務である。将来的には各地域レベルのコーディネーターが必要に応じて各教員のカリキュラム・マネジメントをサポートする体制が築かれるのが理想である。

本研究では、教科の専門性が高まる中・高等学校のコーディネーターの在り方、校種間の連携を促進するコーディネーターの在り方、カリキュラム・マネジメントに関する研修の在り方を明らかにすることが今後の課題として残されたものの、カリキュラム・マネジメントの充実が求められる現状において、コーディネーターの設置が、各学校教員の資質能力の向上、各学校のカリキュラム全体の質的向上に大きく寄与するという確信を得るに至った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計10件)

加藤智「総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントに関する一考察」愛知淑徳大学教育学会『学び舎 - 教職課程研究 -』第13号(査読無) 3頁~17頁、2018年

加藤智「米国のサービス・ラーニング・コーディネーターが有する役割と専門性から考察する総合的な学習の時間のコーディネーターの在り方」愛知淑徳大学文学部『愛知淑徳大学論集 - 文学部篇 -』第43号(査読無) 53頁~68頁、2018年

<http://hdl.handle.net/10638/00007881>
加藤智「総合的な学習の時間の展望と課題 - 米国サービス・ラーニングの現状と課題の分析から -」愛知淑徳大学文学部『愛知淑徳大学論集 - 文学部・文学研究科篇 -』第42号(査読無) 11頁~26頁、2017年

<http://hdl.handle.net/10638/00007828>
加藤智「サービス・ラーニング・コーディネーターに求められる役割および資質能力に関する研究」愛知淑徳大学教育学会『学び舎 - 教職課程研究 -』第12号(査読無) 16頁~27頁、2017年

<http://hdl.handle.net/10638/00007739>
加藤智「近年のサービス・ラーニングの動向に関する調査研究 - マサチューセッツ州の調査を基に -」愛知淑徳大学教職・司書・学芸員教育センター『愛知淑徳大学教志会研究年報』第3号(査読無) 79頁~92頁、2017年

加藤智「総合的な学習の時間における食育のカリキュラム開発に関する研究」愛知教育大学生生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第14号(査読無) 1頁~10頁、2017年

加藤智「総合的な学習の時間における小中連携・接続の実態と今後の課題」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第23号(査読有) 24頁~33頁、2016年

加藤智「「総合的な学習の時間」のカリキュラム・マネジメントを担う教員の養成に関する研究 - 総合的学習の担当者的実態・意識調査を通して -」愛知淑徳大学文学部『愛知淑徳大学論集 - 文学部・文学研究科篇 -』第41号(査読無) 67頁~82頁、2016年

<http://hdl.handle.net/10638/5798>
加藤智「我が国の生活科および総合的な学習のコーディネーターに関する実態調査 - 仙台市における「生活・総合コーディネーター」へのインタビュー調査をもとに -」愛知淑徳大学教育学会『学び舎 - 教職課程研究 -』第11号(査読無) 5頁~18頁、2016年

<http://hdl.handle.net/10638/5851>

加藤智「探究的な学習とリフレクション - サービス・ラーニングから得られる示唆 - 」奈良女子大学附属小学校学習研究会『学習研究』第 476 号（査読無）、16 頁～21 頁、2015 年

〔学会発表〕(計 8 件)

加藤智「生活科・総合的な学習の時間を担当するコーディネーターの在り方」日本生活科・総合的学習教育学会第 26 回全国大会自由研究発表、2017 年

加藤智「サービス・ラーニング・コーディネーターの役割と専門性」アメリカ教育学会第 29 回大会自由研究発表、2017 年

加藤智「米国サービス・ラーニング・コーディネーターの事例から考える総合的学習コーディネーターの在り方に関する研究」ほのくに生活・総合研究会、2017 年

加藤智「サービス・ラーニング・コーディネーターの実態と生活・総合コーディネーターの可能性」日本生活科・総合的学習教育学会第 25 回全国大会課題別研究発表、2016 年

加藤智「総合的な学習の時間における小中連携・接続の実態と今後の課題」日本生活科・総合的学習教育学会第 25 回全国大会自由研究発表、2016 年

加藤智「米国サービス・ラーニングの事例に見るコーディネーターの在り方」静岡県生活科・総合的学習教育学会第 6 回研究集会研究発表、2016 年

加藤智「総合的な学習の時間を充実させる「振り返り」に関する研究 - 米国サービス・ラーニングにおける振り返りに関する研究をもとに - 」日本生活科・総合的学習教育学会第 24 回全国大会自由研究発表、2015 年

加藤智「先進校における「生活・総合コーディネーター」の取り組み」静岡県生活科・総合的学習教育学会第 5 回、2015 年

〔図書〕(計 1 件)

加藤智「探究的・協同的な学びの視点から見たサービス・ラーニング」中野真志、加藤智編著『改訂版 探究的・協同的な学びをつくる - 生活科・総合的学習の理論と実践 - 』、三恵社、2015 年、152 頁～169 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 智 (KATO, Satoshi)

愛知淑徳大学・文学部・准教授

研究者番号：00619306